

工事完成通知書

平成〇〇年〇〇月〇〇日

(支出負担行為担当者) 様

住所 〇〇町〇〇番地

受注者 (株) 〇〇建設工業

氏名 代表取締役 〇〇 〇〇 印

工事名(工事番号) 経営体 〇〇〇〇地区 〇〇工区

平成〇〇年〇〇月〇〇日上記建設工事を完成したので通知します。

○工事完成通知書に添付する写真について

昭和60年3月5日設管第50号
各支庁長あて農地開発部長

会計規則第51条第1項第10号(現行財務規則第89条第2項)の規定に基づく、支関係に添付する工事完成出来高を示す写真については、今後別紙要領により取り扱ってください。

記

適用年月日 昭和60年4月1日

(設計管理課)

工事完成通知書に添付する写真について

会計規則第51条第1項第10号(現行、財務規則第89条第2項)の規定に基づく、出関係に添付する工事完成出来高を示す写真については、今後下記の要領により取扱ってください。

1 確認のため必要とする写真は、次のとおりとする。

(1) 出来高部分検査(部検)時、又は工事完成時の全景を示すもの。

(2) 写真の提出枚数は次のとおりとする。

- | | |
|-------|--|
| ア 線工事 | 原則として1km未満は1枚とし、2km増す毎に1枚ずつを追加する。
作工物は、主要な施設につき1枚とする。 |
| イ 点工事 | 原則として1施設につき2枚とする。 |
| ウ 面工事 | 原則として5ha未満は1枚とし、10ha増す毎に1枚ずつを追加する。 |

但し、必要に応じて適宜増減することができ、最大枚数は、6～8枚程度とする。

2 写真の大きさはサービス版を標準とし、色は原則としてカラーとする。又写真台紙(上質西洋紙)に貼付して必要事項を記入の上、提出する。

3 災害復旧工事等については、当該施工部分を赤インクなどにより、写真に明示る。

○工事完成写真についての留意点

・暗渠排水・客土等、施工前と完成の状態の変化が解りづらいものや、土中埋設となってしまうものは、施工状況写真(布設状況や布設完了時など)も添付してください。

・施工前、完成写真において、仮設材・重機等が入っている物は好ましくない。

・黒板を入れて撮影してください。

また、入っていても必要事項(撮影年月日・工種・測点等)が記入されていない、もしくは、小さくて記入事項が判読出来ない物は注意してください。

・施工前と完成写真は、場所・方向を同じくしてください。

・写真において、工種の判別がしづらい物(附帯用排水等)は、工種の記入もお願いします。

・完成写真が積雪により不可視となる場合は、工事完成直後の写真や、路線位置を表示してください。

・工事完成写真の工種については、設計書内の工事概要に記載されている工事工種毎に作成してください。

排水路工 第〇〇排水路等



写真タイトル	着工前
工 種	着工前及び完成写真
撮 影 箇 所	SP=468.63~SP=578.63
撮 影 年 月 日	2014-9-16

測点の表記(起点SP=〇,〇〇)



写真タイトル	完成
工 種	着工前及び完成写真
撮 影 箇 所	SP=468.63~SP=578.63
撮 影 年 月 日	2014-11-22

測点の表記(起点SP=〇,〇〇)

一連の施工状況があり、わかりやすい例

工事完成写真 2-4ほ場

基盤整地状況



撮影月日 平成26年 8月 4日

基盤整地完了



撮影月日 平成26年 8月 9日

暗渠排水施工状況



←不可視部分の施工状況

撮影月日 平成26年 8月 9日

暗渠排水工完了



撮影月日 平成26年 8月12日

表土戻し状況



撮影月日 平成26年 8月16日

客土施工状況



施工後判断が付きにくい物の施工状況

撮影月日 平成26年 8月27日



工種:No. 05-1.2
種別:除礫
写真タイトル:除礫状
況
撮影年月日:平成26年
7月12日

↑ 施工後判断が付きにくい物の施工状



工種:No. 05-1.2
種別:除礫
写真タイトル:搬出礫
全景
撮影年月日:平成26年
7月17日

↑ 施工後判断が付きにくい物の施工状



工種:No. 05-1.2
種別:排水路
写真タイトル:掘削状
況
撮影年月日:平成26年
7月21日

雇 用 労 働 者 就 労 状 況 報 告 書

完了日は契約工期では無く、工事完成日とする。

工 事 名	経営体 ○○○○地区 ○○工区		受注者氏名	(株) ○○建設工業		
請負代金額	○○,○○○,○○○ 千円		施 工 場 所	○○○町	工 期	平成○○年○○月○○日～ 平成○○年○○月○○日
雇 入 労 働 者 合 計	実 人 員	○○(実人員を足した人数) 人	左 の 内 訳	常 用 労 働 者	実人員 ○○ 人	延人員 ○○ 人
	延 人 員	○○(延人員を足した人数) 人		季 節 労 働 者 (うち冬期雇用者)	実人員 ○○ 人 (人)	延人員 ○○ 人 (人)
				そ の 他 (うち農業者)	実人員 ○○ 人 (人)	延人員 ○○ 人 (人)

記入方法
 ア 常用労働者＝工事終了等によって解雇することなく、通年雇用している労働者について記入してください。
 なお、現場代理人や現場事務員等の社員、付帯工事・下請企業の労働者についても含めてください。
 イ 季節労働者＝例年循環して雇入れ、工事終了等によって解雇する労働者について記入してください。
 ウ 実人員とは、労働者の氏名総数のことです。
 エ そ の 他＝常用労働者、季節労働者以外の労働者について記入してください。
 オ 冬期雇用者＝12月1日から3月31日まで雇用した季節労働者について記入してください。
 (注) この報告書は、工事完成通知書に添えて提出してください。

様式6

北海道グリーン購入基本方針に基づく

「平成26年度環境物品等の調達実績(公共工事)」

工事番号		工事名	
受注者		住所	
		氏名	

No.	分類	品目名		単位	数量			④特定調達物品等数量割合(=①/③)	類似品目を購入した場合		⑦備考
		品目分類	品目名		①特定調達品目	②類似品目等	③合計(=①+②)		⑤具体的な仕様(主な例)	⑥調達できなかった具体的な理由	
1	資材	盛土材等	建設汚泥から再生した処理土	m3			0				
2			土工用水砕スラグ	m3							
3			銅スラグを用いたケーソン中詰								
4			フェロニッケルスラグを用いた詰め材								
5	地盤改良材		地盤改良用製鋼スラグ								
6	コンクリート用スラグ骨材		高炉スラグ骨材								
7			フェロニッケルスラグ骨材								
8			銅スラグ骨材								
9			電気炉酸化スラグ骨材								
10	アスファルト混合物		再生加熱アスファルト混合物	m3			0				
11			鉄鋼スラグ混入アスファルト混合物	m3							
12			中温化アスファルト混合物	m3							
13	路盤材		鉄鋼スラグ混入路盤材	m3			0				
14			再生骨材等	m3							
15	小径丸太材		間伐材	m3							
16	混合セメント		高炉セメント	t			0				
17			フライアッシュセメント	t							
16-1			生コンクリート(高炉)	m3			0				
17-1			生コンクリート(フライアッシュ)	m3							
18	セメント		エコセメント	m3							
19	コンクリート及びコンクリート製品		透水性コンクリート	m3							

様式変更が年に数回行われるので、新様式となっているか確認後使用してください。

様式7-1

北海道グリーン購入基本方針に基づく

「平成26年度環境物品等の調達実績（北海道認定リサイクル製品及び北海道リサイクルブランド）」

単位は様式にあわせてください
(異なる場合は換算してください)

工事番号		工事名	
受注者		住所	
		氏名	

No.	区分	品目名		認定事業者名	JIS規格認定	JIS規格準拠	単位	総調達量	備考
		品目名	製品名						
1	ブランド(土木・建設資材)	建設資材(デッキ材、外壁材、フェンス材など)	カムイウッド	カムイ・エンジニアリング(株)	●		t		
2	ブランド(その他)	チョーク	ダストレスチョーク	日本理化学工業(株)美唄工場		○	本		
3	ブランド(土木・建設資材)	水性塗料入り段ボール箱	オミリーパック	(株)マルダイ建装		○	セット		
4	土木・建設資材	複合暗渠資材	スーパー暗渠(らくらく)	(株)倶知安コンクリート工業所			本		
5	様式変更が年に数回行われるので、新様式となっているか確認後使用してください。								
6									
7									
8									
9									
10	土木・建設資材	路盤材	材)	越前建設(株)			t		
11	土木・建設資材	路盤材	鉄鋼スラグ路盤材	新日鐵住金(株)室蘭製鐵所(旧新日本製鐵(株)室蘭製鐵所)		○	t		
12	土木・建設資材	路盤材	アスファルト舗装用製鋼スラグ	新日鐵住金(株)室蘭製鐵所(旧新日本製鐵(株)室蘭製鐵所)		○	t		
13	土木・建設資材	地盤改良材	地盤改良用製鋼スラグ	新日鐵住金(株)室蘭製鐵所(旧新日本製鐵(株)室蘭製鐵所)			t		
14	土木・建設資材	盛土材等	土工用水砕スラグ	新日鐵住金(株)室蘭製鐵所(旧新日本製鐵(株)室蘭製鐵所)			t		
15	土木・建設資材	藻場造成製品	ビバリーユニット	新日鐵住金(株)室蘭製鐵所(旧新日本製鐵(株)室蘭製鐵所)			t		
16	土木・建設資材	藻場造成製品	ビバリーボックス	新日鐵住金(株)室蘭製鐵所(旧新日本製鐵(株)室蘭製鐵所)			基		
17	土木・建設資材	煉瓦	アッシュブリック	米澤煉瓦(株)		○	枚		
18	土木・建設資材	多孔質軽量発泡資材(土木、建築、造園)	スーパーソル	(株)イーアンドエム(旧:(株)札幌カンリサイクル)			m3		
19	土木・建設資材	建設資材(盛り土、埋め戻し土、砂代替品等)	粒状土(RG)	協業組合公清企業エコパーク			m3		
20	土木・建設資材	農畜産用コンクリート	ライコン	(株)ライコン(旧:土曜鉄工株)			m3		
21	土木・建設資材	断熱材兼用型枠材	フライアッシュGPパネル(旧:オーマルYB-S)	岩倉化学工業(株)	●	○	m2		
22	土木・建設資材	断熱材兼用型枠材	フライアッシュGPパネル(密着型)(旧:オーマルYB-R)	岩倉化学工業(株)	●	○	m2		
23	土木・建設資材	セメント	高炉セメントB種	日鉄住金セメント(株)		○	t		
24	土木・建設資材	凍上抑制材	OEビーズ2	王子エフテックス(株)(旧:王子特殊紙(株)江別工場)			t		
25	土木・建設資材	盛り土、埋め戻し土等	OEビーズ3	王子エフテックス(株)(旧:王子特殊紙(株)江別工場)			t		
26	土木・建設資材	コンクリート製品	エコスラグ縁石	北海道エコスラグコンクリート製品協同組合		○	t		

平成25年度環境物品等の調達実績(北海道認定リサイクル製品及び北海道リサイクルブランド)

北海道では、道内で発生した循環資源を利用し、道内で製造されたリサイクル製品を北海道知事が認定する「北海道リサイクル製品認定制度」を設けています。

北海道知事に認定されたリサイクル製品は、一定の品質基準・環境基準をクリアした製品であり、「北海道グリーン購入基本方針」に基づき「特定調達品目」に指定され、公共工事や物品購入時に、優先して調達することが定められています。

北海道認定
リサイクル製品は
「安全・安心」
な製品です！



北海道認定リサイクル製品マーク

平成 年 月 日

工事番号		工事名	
受注者	住所		
	氏名		

I **様式変更が年に数回行われるので、新様式となっているか確認後**
II **使用してください。**

III 使用した「北海道認定リサイクル製品」の製品名を教えてください(IIで1を選んだ方)

製品名(複数ある場合は全て記載してください) → 質問IVへ

様式7-1で記載した物については、必ず記入してください。

IV 「北海道認定リサイクル製品」をまた使用しようと思いませんか?(IIIを回答いただいた方)

- 1 また使用しようと思う → 質問は終了です
- 2 また使用しようと思わない → 質問Vへ

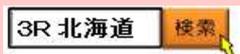
V 「北海道認定リサイクル製品」を使用しない理由を教えてください(IIで2又はIVで2を選んだ方)

- 1 品質に不安がある (複数回答可)
- 2 品質の判断材料がない
- 3 値段が高い
- 4 アフターケアに不安がある
- 5 必要量が調達できない
- 6 発注者の承諾が得づらい
- 7 対象となる資材等がない
- 8 北海道認定リサイクル製品に対する理解がなかった
- 9 その他(内容: _____)

VI その他、御意見等を記載してください

記入要領

- 1 製品の詳細は、ホームページをご覧ください「北海道認定リサイクル製品」
http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/jss/recycle_2/ninteiseido/ninteiseidotop.htm
- 2 この報告書は、「別紙様式2-1」と併せ、工事完成通知書に添えて提出してください。



技能士活用状況報告書

平成〇〇年〇〇月〇〇日

檜山 振興局長 様

住所 〇〇町〇〇番地

氏名 (株)〇〇建設工業

1 工事名等

工事番号	〇〇〇〇	工事箇所	〇〇〇町	請負代金額	〇〇,〇〇〇,〇〇〇
工事名	経営体 〇〇〇〇地区 〇〇工区				

2 技能士活用状況等

工事種別	技能士検定職種	該当工種の有無	当該工事に従事した労働者数(実人員)											
			技能士						技能士以外	計				
			特級	1級	2級	左以外の級								
1	地盤改良(ウエルポイント)工	ウエルポイント施工			人		人		人		人	0	人	
2	コンクリート工	型枠施工			人		人		人		人	0	人	
3		コンクリート圧送施工			人		人		人		人	0	人	
4		鉄筋施工			人		人		人		人	0	人	
5	積ブロック工	コンクリート積みブロック施工			人		人		人		人	0	人	
6	さく井工	さく井			人		人		人		人	0	人	
7	コンクリート補修工	樹脂接着剤注入施工			人		人		人		人	0	人	
8	石積み工	石材施工			人		人		人		人	0	人	
9	植栽工	造園			人		人		人		人	0	人	
10	塗装工	塗装			人		人		人		人	0	人	
11	とび工	とび			人		人		人		人	0	人	
12	防水工	防水施工			人		人		人		人	0	人	
13	区画線工	路面標示施工			人		人		人		人	0	人	
14	上記以外の工種		○		人		人		人		人	0	人	
合計					0	人	0	人	0	人	0	人	0	人

記載方法等

- ※1 当該工事において、1～13に示す工事種別に該当する工種がある場合は、該当する工事種別の「該当工種の有無」欄に「○」を記載してください。
なお、1～13に示す工事種別に該当する工種が無い場合、又は該当する工種があってもそれ以外の工種を含む工事の場合は、「14 上記以外の工種」の「該当工種の有無」欄に「○」を記載してください。
- ※2 「該当工種の有無」欄に「○」を記載した工事種別について、その工種に従事した労働者の実人員(氏名の総数)を技能士の級別及び技能士以外に分類して記載してください。
なお、労働者とは、常用労働者(P40「雇用労働者就労状況報告書」と異なり、技術者、現場代理人、現場事務員等は除く)、季節労働者、それ以外の労働者のすべてが含まれます(それぞれ下請を含む)。
- ※3 「14 上記以外の工種」において、技能士が従事した場合は、「技能士検定職種」欄に技能士検定職種の名称を記載するとともに、上記※2と同様に記載してください。
なお、欄が不足する場合は、適宜欄を追加して記載してください。
- ※4 この報告書は、技能士活用の有無にかかわらず、工事完成通知書と同時に提出してください。